

しずおか女性の会

会報42号

平成 19 年 3 月 31 日発行
編集発行 しずおか女性の会



新春フォーラム 2007

平成十八年度の活動を振り返って

ひとりではできないことを

みんなの手で

寺田 朝子

「しずおか女性の会」の仕事って、いったい何だろう、30団体、8000人もいる会員が、同じ目的に向かって、共に活動する、そんなものってあるのだろうか、そんなことを考え続けてきた一年だった。暗中模索しながらも、この一年、いくつかの事業を展開してきた。

団体やグループの出前講座の

ための「寸劇入門講座」

喫茶「あいせる」を活性化する

ための「ミニコンサート」

辛淑玉さんの講演と市長を交えた

シンポジウム「新春フォーラム」

東京方面への「視察研修旅行」

どの企画についても、企画した当初は、うまくいくだろうか、人は集まるだろうか、と不安だった。

それを、何とか成功に導いてくれたのは、**運営委員と会員の協力**だった。

活動の分野も、活動の内容も、活動の規模も異なるたくさんの会員が、私たち運営委員を後押ししてくれた。いい仲間めぐり合えたことを感謝しながら、「ひとりではできないことも、みんなの力が合わされば何とかなる」と実感している。

実は、冒頭にのべた「しずおか女性の会がしなければならぬ、大切な仕事」についても、それは、社会的な発言と行動なのではないか、と考えている。

「しずおか女性の会」は、静岡市内では最も会員数の多い女性団体である。

「アイセル21」の建設活動から始めて、二十年にわたる歴史もある。



ミニコンサートの打ち合わせ風景

その実績は社会的にも評価され、静岡市におけるさまざまな審議会や委員会、市長との対話や講演会など、公に対する発言の場を確保している。

いいかえれば、女性の立場で行政に発言できる貴重な場を持つ団体、静岡市にとっても無視する事の出来ない団体なのである。

私たちは、その貴重な機会と立場を無駄にはいけないのだ。

30団体、それぞれの活動は異なっても「誰もが生き生きと暮らせる社会をめざす」という底に流れる思いは共通なのである。

社会的な責任ある発言と行動、そこに大きな課題があると私は考える。